VOL. VI . NO. 1

ねじればね

April 1961

—通巻第10号—
昭和36年4月28日 発行
編輯者： 後 藤 光 男
大阪府泉北郡高石町北609

日本甲虫学会
神戸市東灘区御影町天神山46

ホソドロムシ科の採集法

後 藤 光 男

ホソドロムシ科（Elmidae）の甲虫は従来ドロムシ科の一亜科として取扱われていたが，現在ではホソドロムシ科とされており，その幼虫・成虫とも一生を水の中ですごし水辺や水中の石下とか水底の泥の中に棲息している。現在迄に邦産種として知られているのは約30種であつて，その殆んどが1957年以降の発表で近年急激にこの科の記載が増えたのは，従来の採集が灯火に飛来したものや偶然の機会に得られただけのものが，その後ホソドロムシ科独自の採集法の進歩があり，合理的に且多量採集する方法が判つたためである。

この科については野村 鎮氏のチエツクリストがあり，又甲虫類の中にあつても開拓される余地が充分あるのにかゝわらず一般にあまり興味をひかないのは残念と思はれるので，ここに筆者が現在行つている山間部の渓流を主とした採集法についてのべて見たい。

この採集法によるとホソドロムシ科甲虫の外にドロムシ・チビドロムシ・ゲンゴロー・ガムシ・ハネカクシ・ゴミムシ等の甲虫類やナベブタムシの幼成虫・トンボ・カワゲラの幼虫等も採集出来るので，各地においてこの方法を試みられホソドロムシ科の邦産フアウナーがより一層明確になるのを期待するものである。

0 採集の用具……ホソドロムシ科を専門に採集するのでなければ，採集に出掛けた際に水辺や水中の石下や材木の裏側に止つているのを見付ければよい訳だが，僅かの種類と個体数しか採れないので専門に採集するとなると採集用具の準備が必要である。

1. フルイ（トウシ・裏ごし器） 100〜600円

用具専門店に売つている水棲網で代用してもよいが，捕みが早いので，やはりフルイが便利である。これは金物店や荒物店で売つているので入手は容易であるが，鉄金網製のものはさびるので真鍮金網製のものが望ましい。網目も1㎜メッシユ以下でないと網目から虫が抜けるので，メッシユは出来るだけ細かいのにすべきである。

フルイは大きい程採集の範囲が広くて便利であるがあまり大きくては持運びにも不便であり，又水深との関係もあつて持て余す場合があり，あまり小さくても範囲がうんとせばめ

られるので，フルイの直径は小で２０糎．大で５０糎が適当である。フルイの深さも５cm以下のものであると網目が非常に細かいので水が逆流し，せつかく網にかゝつたホソドロムシも外に流されるので１０cmは欲しいものである。

2. 三又熊手　　９０〜１３０円

園芸用のもので結構で無くてもあり合せの竹切れや枝等で代用したり素手でもよいが，竹枝では労力がいり効果も薄く，素手では指先を痛めるのでこれは是非持ちたいものである。

3. ピンセット　　７０〜１００円

普通のや先尖ピンセットでも構はないが網上にかゝつた水濡れのホソドロムシは仲々捕えにくいので，切手商や百貨店の切手売場で売つている切手整理用の先広なピンセットが使用に便利である。

4. 殺 虫 管

底に殺虫剤を入れるのは当然であるが更に脱脂綿を細長く千切つて入れておくと便利である。１本よりも２．３本は用意して場所別に入れる方があとで調べる時に便利である。

5. この外幼虫管を持参した方がよく，ホソドロムシの生品やヤゴ等を生かして持帰るのに便利である。採集の方法によつては地下足袋かワラ草履を必要とするが，これは強いて持参するには及ばない。

○ 採集の時季 ……この科の甲虫は一年を通じて採集が可能であるが，１１月から３月迄は虫自体越冬のため泥中深くもぐるのと，きびしい寒さに長時間冷たい水中に入つたり，手を入れたりすることは到底不可能なので，この期間は避けた方がよく（水面が凍り雪が降つていても水底の石下や泥中では採集することが出来る），４月からはだんだんと気温も水温も上昇するので採集が容易になり９月末迄続けることができる。７．８月は採集に一番適していて，特に渇水期になる８月の上中旬は川水も減じ流水も狭まるので，虫自体の行動範囲が制限され，１ケ所に多くの種類と個体が集まるので見逃すことのできない時季である。しかし４月〜９月間でも時々相当の雨量を見る日があつて，その一日二日あとは水かさも急に増して平常ならば川原であるところに水が流れていたりする。初めての採集地であるとこの事実が判らないから失敗することもあるので，雨降りの後での採集には場所の選択に充分の注意が必要である。

○ 採集の場所と方法 ……この甲虫の棲息場所が水辺や水底の石下．泥中であるので，河川．池．沼，湿地．田畑の溝等水があるところであれば見ることができるが，平野部のこれらの場所は農薬や悪水の流れ込みで期待がもてず，採集となるとやはり山麓か山間部に限られるようである。しかしこの科の甲虫はよく灯火に飛来するので平野部でも橋上の照明下とか，川に近い駅の灯，池沼畔や水に近い民家の灯とかは見逃せない採集場所である。山麓や山間での河川は殆んど渓流となつてるところが多く，この渓流も下流や本流との合流点になると

川巾も広くて水量も多いから採集には中流より上が適している。中流から上になると滝のように大きく落込んでいたり，そこから瀬になつて小さい落込みがあり，又瀬が続いて淵になつたり，上流に行くにしたがつて変化がある。これらの渓流へはいくつかの左右から大きな谷や小さい谷から支流が流れ込んでいる。渓流でのホソドロムシ採集の要は流れの下手にフルイを沈めその1米程上手を三又熊手で川底の石を起したり，石と共に石下の泥をかき廻すのである。こうすることによつて石下にへばり付いていたホソドロムシは水の勢で石から離され，泥中のホソドロムシは泥土がかき起されるので浮き上り流れにのつてフルイに流れ込むのである。水の流れも相当強いので，フルイの網目が大きいと虫が網目より抜けてしまい，網目の細かいものでもフルイの間近でのかき起しでは水流が弱い場合は別だが，早い流れだと水が逆流して虫が飛び出してしまう。むしろ距離がある程効果がありホソドロムシの一部は水面に浮び流されるが，殆んどのものは水中に浮んで流される。フルイを入れる場所も川中でも川岸でも瀬の終りが面白く，次いで小さい落込みである。小さい瀬なら瀬の終りにフルイを固定し瀬の始まりをかき起すれば充分に効果が現はれる。落口であると落口にフルイを受けてその上手の溜りをひきかき廻すのである。左手でフルイを持ち右手で三又熊手を使うとなると精々その行動範囲は1～1.5 mにしかならないが，これだと水に入らず岸辺で充分採集できる。水に入つた場合はこの外に流れを下手にしてフルイを水中につけ川に腹ばいの形になると足が使える。これだと地下足袋かワラ草履が必要になつてくるがその行動範囲は2倍以上になり，フルイを支えにするので相当上手迄足が延ばせるので手当り次第足先で石を起し川底をかき廻してホソドロムシをフルイに流し込むことができる。熊手でひき起したり足けりしたりすると川水は泥や砂で濁るが，水流のためすぐに澄んでくるので水が澄みきれば一回の採集が終りとなる。
このような方法によると場所にもよるが1回の採集で少くとも50頭前後のOrdobrevia，Paramacronychus，Zaitzevia，Optioservus，Stenelmis，Pseudamophilus，Grouvellinus 属に属するホソドロムシを採ることができ田畑の溝もこの方法でする。Dryopomorphus属のホソドロムシは渓流でも非常に巾の狭い溝のような所とか，岩の間から水がしみ出て下に水が溜つているところの赤土中にいるので，溝ならば下手にフルイを受けて上手から赤土を水中に崩しながら泥と共に流し込めばよく，溜水の場所なら水底の泥土や周りの赤土をフルイに入れて水中で濾せば見付けることができる。しかしこのような場所では溝に落ちこんだ材木の切片や杉丸太をひつくり返した方が面白く，木材裏と水底とが接する部分によく着いていて，落込んだスギ．ヒノキの枯枝も見逃せない採集場所である。Neoriohelmis 属のホソドロムシは水中の石下よりむしろ岸辺の石下とか水に浸る雑草にいる方が多く，この場合だと岸辺に近くフルイを固定し上手の岸辺を水中に崩して行くと面白い。この場合にはドロムシ科(Dryopidae) のElmomorphus 属も共に採集することができる。

湿地の場合は溜水の場所での採集法を使い，池沼の水辺でもこの方法が使えるが，水深のあ

る池．沼では有合せの棒切等で水底をかき廻して浮き上らせばよいと思う。

以上が渓流を主としたホソドロムシ科甲虫の採集法であるが，実際にフルイを使つて見なくては仲々合点が行かず採集の度が重なれば種類の棲息場所も判つてくるものである。

新 入 会 員

308. [redacted]
309.
310.
311.
312.
313.
314.
315.
316.
317.
318.
319.
320.
321.
322.

住 所 変 更

293. [redacted]
133.
246.
265.
243.

『訂　正』　前号（通巻第９号）の巻号をVOL.V，NO.4に訂正いたします。

＊＊

昆虫学評論第１３巻の会費を御納入下さい

昆虫学評論第１２巻第２号で貴方の会費は会費切れとなりましたので，遅くとも７月３１日迄に当会事務所宛第１３巻分４００円の御納入をお願いします

＊＊

月　例　会　（於　大阪市立自然科学博物館）

第３３回例会　昭和３６年１月２１日

出席者：　藤田国雄．後藤光男．林　匡夫．日浦　勇．生谷義一．河野　洋．中川宗次郎
大倉正文．佐藤　納．芝田太一

第３４回例会　昭和３６年２月２５日

出席者：　林　匡夫．河野　洋．村上喜与志．中川宗次郎．中川　護．大倉正文．
芝田太一

第３５回例会　昭和３６年３月１８日

出席者：　藤田国雄．後藤光雄．浜　裕夫．林　匡夫．林　靖彦．生谷義一．伊藤連夫．
木村　裕．村上喜与志．中川　護

林　匡夫：　日本産のトラカミキリについて　（１）

第３６回例会　昭和３６年４月１５日

出席者：　藤田国雄．林　匡夫．今中　宏．河野　洋．村上喜与志．中川宗次郎．
中川　護．大倉正文．塚口茂彦

林　匡夫：　日本産のトラカミキリについて　（２）

用具，文献などのお世話をいたしております。

通巻第７号でお知らせしました志賀昆虫普及社製品のあつせんその他は多大の好評を博し，多くの方々の御利用を戴き感謝しておりますが，今般物価値上りの折志賀昆虫普及社の製品も定価が改訂されましたので，新価格をお知らせすると共に一層の御利用をお願いいたします。

◎　志賀昆虫普及社製品

これは会員の方で京阪神の地域にお住いの方を対照としていますので，現金引換えで御自身で引取りに来て下さる方に限ります。本会の例会（第３土曜日）の数日前迄に当会事務所までお申越下されば例会の席上（大阪市立自然科学博物館）でお渡し出来るよう取計らいます。又すぐに必要とされる方は会員芝田太一氏宅（大阪市東区淡路町４丁目６８　電話：23局8756）にお越し下さい。

インロー型標本箱	大型　36×27cm（総桐製．厚コルク敷．一級品）	１箱	*450円
〃	小型　31.5×22cm（　〃　）	１箱	*300円
携帯用標本箱	（ポケット型）17×10cm（総桐製）	１箱	85円
シガ昆虫針	（ステンレス製）無頭１．２．３各号	１００本　１包	* 70円
吸虫管	（ゴム管付）　二重式	１本	140円
ピンセット	先尖，ステンレス製	１本	230円
ルーペ	金属菱形繰出（二枚レンズ）正１０倍	１本	550円

（＊印は本年末までの暫定価格です）

◎ １５周年記念日本手拭

日本昆虫学会大会の席上で大好評を博しました。あと僅か残っています。1本 １００円(送共)

◎ ラ ベ ル 類

属名および種名用（上質白色厚紙，一面１０小間） １組（属．種各１枚）につき４円

切手代用でも構いませんが別に送料を加算願います。送料は２０組までで１０円です。

同 定 用 （同定者名．年号）

採集地名用Ａ（年号．採集者名のみ）

同 Ｂ（採集地名．府県又は国名．年号．採集者名）

上記３種は共に本邦最小4.5ポイント活字使用又は６ポイント活字縮版，上質白色厚紙，一面１０片，１０００枚（即ち1万頭分）を御希望の方にお世話しています。

出来上り見本．送料込価格等後藤宛御照会下さい。

◎ 昆虫学評論バックナンバー

初期の会報に欠号を生じてきましたが，追々その後の巻号も欠号が増えてきますので，早い目に御購入をお願いします。

第１巻～第４巻揃い（但し第２巻第１号および第２号は欠号）		３００円
第５巻～第９巻	各巻につき	４００円
第１０巻～第１１巻	各巻につき	５００円
第１巻～第１０巻総目録		５０円
第１巻～第１１巻揃い（内第２巻第１号．第２号欠．総目録付）		3,３００円

＊＊＊＊＊＊＊ 新入会員を御紹介下さい ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日本甲虫学会と会名もかわり昆虫学評論も１巻分２冊の発行を順調につづけています。すでに第１３巻第１号の編輯に入りました。会員が１人でも多く増えますと，それだけより頁数の多いより内容の充実した昆虫学評論をお手許に届けることができますから，お知合いでまだ入会されていない方を御存知でしたら，この際是非入会されるようお誘い下さい。